朝鮮の話

朝鮮を未だ見ぬ國として想像して居る人々は、山も、川も、野も、凡てが今でも荒廢そのものゝ樣な狀態に放棄されてゐる未開の地と考へてゐる樣であるが、之等の人が一度朝鮮の土地を踏んだならば、よくもこんなに內地化されたかと驚きの眼を放つ位で、朝鮮を未開の地と文明人の住むべからざる土地と考へられたのは、既に過去の夢である。

朝鮮は乾ける國である　そこは、環境なり傳統なり國民性を別にして今日に及んでゐる丈に、濕れる國の者には驚異に値する幾多のものをもつてゐる。「住みかへて住むべき土地は乾ける國とぞ思ふ」誰でも云ふ事だが、朝鮮に三年住んだら內地なぞに住めないと言ふ。朝鮮の風景と言へば、寂寞そのものゝ樣に思はれてゐるが、世界に其の奇と雄大とを誇るに足る

金剛山を初めとして、嘗つては咲き誇つた新羅、高麗、百濟の文化の跡、其他至る所名所舊跡に乏しくない。朝鮮滿洲と云へば、一般に寒い國を聯想する樣であるが、南部地方は內地の福井地方に同じく、中部は信濃地方に、また北部は函館地方と殆ど變らない。殊に

三寒四溫と言つて、三四日每に寒暖交替する爲に、甚だ凌ぎ易い。

朝鮮全土の面積は一萬四千三百十二方里、略內地本州に異ならない、其處には朝鮮人約千八百萬人に對し、內地人僅に四十萬人である。それでどうして新同胞を導き教へ彼等の間に伍して

內鮮同化共昌共學の理想を實現することが出來やうか、

この廣い土地は農業と言ひ、水產と言ひ、林業と言ひ相當天惠に富んでゐるのだが唯資本と勞力の足らない爲に未だ開發せられないものが多い。されば內地資本家諸君は朝鮮開發に向つて一考されんことを希望する。

米は半島の主要產物の隨一である。其產額年一千五百萬石內外、輸移出高三百五十萬石餘に達し、始政當時に比し前者に於て約五割、後者に於て約七倍の增加を示してゐる。其耕地は、畓百五十五萬町步、田は二百八十四萬町步、火田十四萬町步で耕地となし得る未墾地はまだ〳〵ある。朝鮮總督府は此點に着眼して、產米增殖計畫を樹て耕地の擴張と改良に努めてゐる。これが完成の曉には、日本の食糧問題人口問題が解決せらるゝことであらう。

其他麥の八百五萬石　大豆の四百五十三萬石等皆豐富に出來る、而も綿の栽培は風土に適し、極北の一部を除いては到る處に栽培され、今や年產額一億一千八百七十萬斤に上つてゐる。煙草果實養蠶等も亦、朝鮮の風土に適してゐる主要產物である。

人參は古來高麗參と稱して、不老長壽の靈

滿蒙の話

滿洲といへば、一般交通機關の發達した今日、既に滿蒙の實際を知つた人も、近頃は大分殖えて來た樣であるから、いま時

馬賊の話でもあるまいと思ふが、まだ〳〵多くの人は滿洲といへば、スグ馬賊を聯想し、從て一概に滿洲はこわい所、無味荒寥な所、大變寒い所位に想像してゐる樣であるが

現在の滿洲は交通機關も整ひ、隨所に日本內地以上の文化都市が出來、警備に必要な日本の軍隊も駐屯し、いろ〳〵の產業が發達しつゝある實情であるから、從てそんな方面に馬賊など居樣筈がない、尤も普通の泥棒強盜の類なら

東京や大阪のまん中にもある樣に、之はドコも同じだが、ホントウの馬賊などいふのは、まづ滿洲でも餘程の邊鄙か、山奧へでも行かねば見られないのである、それから滿洲はヒドク寒い所だと、ひと頃よく

さぞや滿洲は冷めたかろと唄はれたものであるが、なる程滿洲は日本より寒いには寒い、けれども大陸は空氣が乾燥してゐるから、寒暖計の零下何度という割合には、からだにコタへない、そして滿洲には

滿洲の防寒法がチャンと出來てゐて、家の中など極寒でも七十度位に暖められるやうになつてゐる。現に滿洲にゐる二萬人からの日本人の子供が、みんな寒中でも平氣で休みなしに學校へ通つてゐる位で、寒さは少しも恐れることはない。

滿蒙の廣さ　滿洲が六萬四千方里、東部內蒙古が一萬方里、一寸日本內地の三倍、ソレニ人口が僅に二千四百萬、日本の三分の一もない、マダ耕せる土地が一千萬町步から殘つてゐる。

沃野千里の大陸　日本では關東平野が一番廣い武藏野はお月樣が草から出て草に入ると誇つてゐるが、日中は秩父連山や筑波山などの山々も見えるし、快晴の日には富士が見える程度の平原である。そこに行くと滿蒙の自然は大い海である。太陽が地平線から出て、地平線に入る。一望千里丸で陸の海である。ソコにはアナタ方が、朝夕滿洲のものとは知らずに召上つてゐる豆腐、おみその原料

大豆二千萬石　世界中で出來る大豆の凡そ七割が出來る、其他粟三千萬石、高粱三千六百萬石、小麥、麻、煙草、野菜、果物など何でも豐富に出來る、米も二百萬石とれて、マダ〳〵年々增加しつゝある、山からは鐵、石炭、殊に

撫順炭鑛九億噸　いま年額六百五十萬噸から掘つてゐるが、今後二百年は大丈夫、炭質も中々よろしい、ソレに有名な**露天掘**は、誰しも見てビツクリするので只地面の上土を剝取つて、大きな池の樣な所から順々に石炭を取り出

人　蔘 は古來高麗蔘と稱して、不老長壽の靈藥として、世界的名聲を博してゐる特產物であることは、普く知られてゐる。

赤い禿頭の山 この言葉は直に朝鮮を連想せしめるほど朝鮮は世界にも少い山國であるが。舊慣の爲めに亂伐され、全然荒廢されてゐたのだが、現在森林の面積千五百八十八萬町歩全土の約七割一分を占め、今や全く面目を一新し木のない山はない位になつた、然し林業は、國境の大森林を除き、利用期にあるといふより保護期にあると言ふてよい。

金、銀、銅、鐵 等の金屬は言ふまでもなく、大理石花崗石などの石材も、半島には可なり豐富に埋藏されてゐるし、石炭も平壤の無烟炭を初め、咸鏡會寧方面には豐富な埋藏量を持つて居る。

海　產 としては明太魚、鯖、鰮、鰊、鱈等は其の主たるもので、皆樣の夕食の膳を賑はす魚類が、朝鮮近海から送られると聞けば知らない人は驚くであらう。朝鮮產と言へば、大阪住吉の名物大蛤も、神戶名產の牛肉も、支那甘栗と銘うつ美味の栗も、其多くが朝鮮から送られてゐるのである。この樣に內地の人々は日常知らず識らずに、朝鮮の產物を數多く使つてゐるから驚く。

下　の　關 を關釜連絡船で晩に出ると、翌朝は釜山に着く—航海時間約八時間—歌に名高い玄海灘も、何時通つたか分らない位である。朝鮮を遠い所と想ふたは昔の夢。大阪人の東京に旅するより近いのが、內鮮の交通である。釜山に着けば、奉天行の汽車が待つて居る。四呎八吋半の廣軌鐵道、大きい客車、ふんわりした坐席、乘れば十時間で京城へ、二十二時間で安東に着く。

今や內地には大きな自然的壓迫がある それは限られた容器に、盡きざる產物を盛らんとする壓迫である。それにも拘らず、日本人の多數は其の狹い故國に板付けになつてゐる。而して木で作つた家の中で洋服を着て、バタ臭い食物を嚙りダンスをすることを覺えて、自由の土の上でしんみり生きて行くことは省みやうとしない。而してそれが本當にいゝことゝ思ひ込んでをるらしい。之等の人達は、何故に鮮滿こそ、本當に永久に生きる道の橫つてゐる所だと、考へないでゐるのだらうか。

そこには人口と食糧の問題 を解決すべき鍵があるのではないか、やがて冷靜な瞳に立ち返つた時その眞實の眼をたがはず鮮滿の上に注ぐことを忘れないで戴きたい。

土を剝取つて、大きな池の樣な所から順々に石炭を取り出してゐる、又

流す筏の鴨綠江 をはじめ、滿洲一帶には木材が凡そ五十億石あつて、關東大震災のときも、澤山輸送されたのである、斯樣に滿蒙は野に山に富が充ち滿ちてゐる。

この豐富な原料と滅法安い勞力 を利用して、年々製油、製粉、釀造、製糖、製紙、紡績、機械等いろ〳〵の工業が續々起りつゝある、資本家の欲する條件全部は、滿蒙に於て始めて具備してゐるといふべきである。

賢明なる資本家諸君 日本內地の起業は既に行詰つてる今日、國家の前途を考へられるならば、一日も早く此方面に正しき理解を有たるべきである。

滿　蒙　の　開　發 は人口問題、食糧問題の爲、吾々大和民族の存立上、是非必要なことであると共に、又實に

日支共存共榮 進んでは、世界人類の福祉增進に貢獻するもので、今日迄吾々日本人の努力經營は、如何に滿蒙の文化を促進せしめたか、如何に世界物資の需給を增進せしめたか、ソシテそれがみんな、中華民國人にも、又歐米人にも均しく利益せしめてゐるのである。

滿　鐵　會　社 はこゝに六億圓に近き投資をして、鐵道、水運、港灣、倉庫、ホテル、炭鑛、製鐵ソレカラ八千萬坪の附屬地に、都市の經營乃ち上下水道、道路、公園、圖書館、消防、屠獸場、病院、學校は幼稚園から大學までを設けて、尙產業の助長奬勵についても、出來るだけの便宜を圖る等、專ら滿洲の開發文化に努力してゐるので、中華民國人も續々我文化施設を利用する爲、滿鐵附屬地に來住しつゝあるのである。

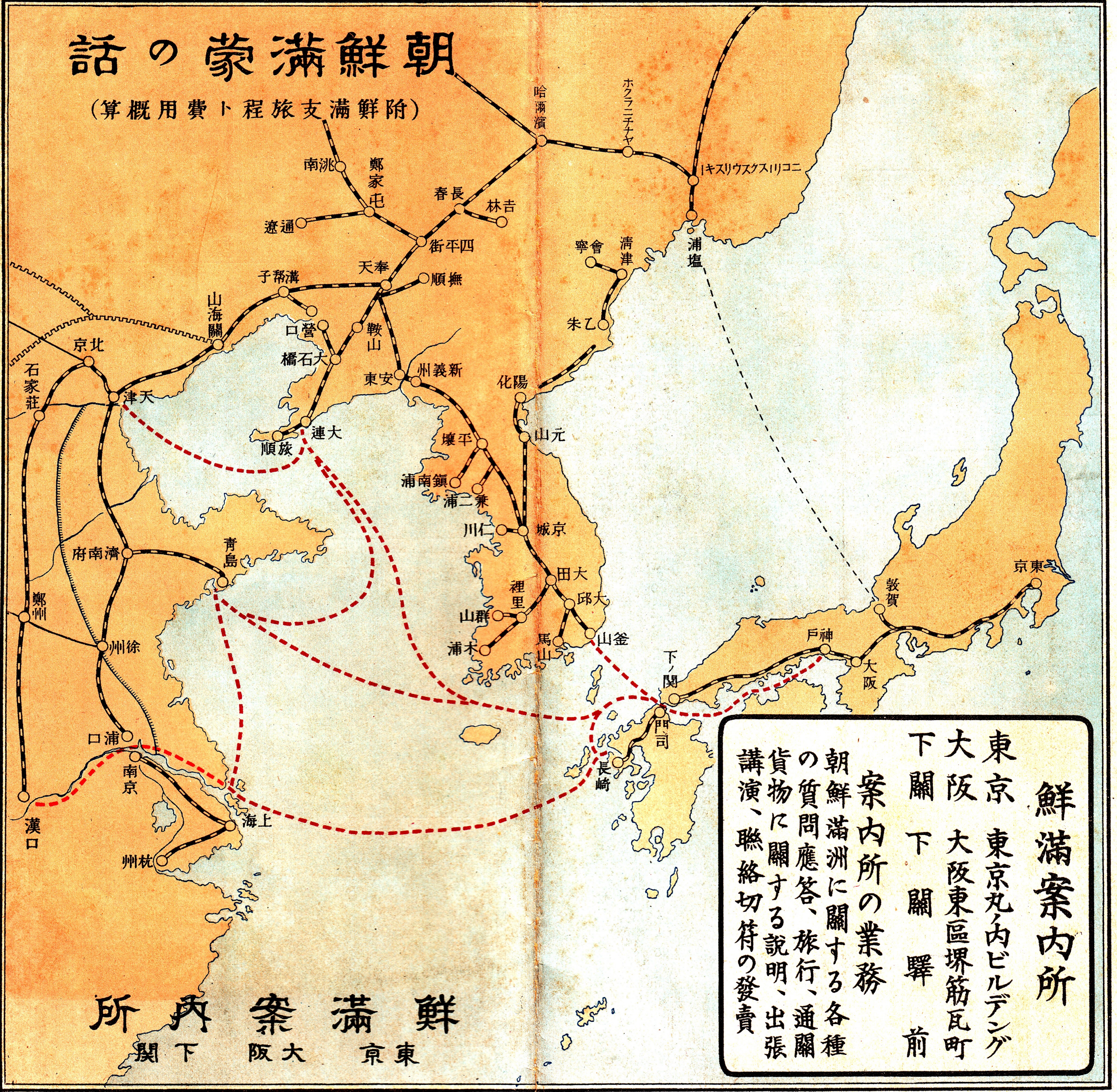
下　の　關　か　ら 大連迄は二晝夜、この間六千噸級の汽船が定期に運航し、船は大連の埠頭に橫づけになる、ソコにはゆつたりした廣軌の汽車、歐米式の立派な道路と家屋、最新文明の施設を完備した、人口二十萬の大連市があり其他滿洲沿線の地には人口二十五萬の奉天、外長春、哈爾賓など、日本の田舍の市など、トテも及ばぬ整つた都市が、大小二十餘あつて、至る所日本の旅館があるから

旅行には少しも不安不便はない 近來內地から實業家、學生團殊に女學生なども、續々手輕にやつて來られる、鮮滿の視察は單なる內地の名所巡りと異つて、因襲的引込思案の我國民性を覺醒し、又國民として是非其實情を知つて置かねばならぬもので、寧ろ

國　民　の　義　務 ともいふべく、特に學生の見學旅行などには、絕好の意義あるものと思ふ。

朝鮮滿蒙の話

（附鮮滿支旅程ト費用概算）



鮮滿案內所

東京 大阪 下關

鮮滿案內所

東京 東京丸ノ内ビルデング

大阪 大阪東區堺筋瓦町

下關 下關驛前

案內所の業務

朝鮮滿洲に關する各種の質問應答、旅行、通關貨物に關する說明、出張講演、聯絡切符の發賣

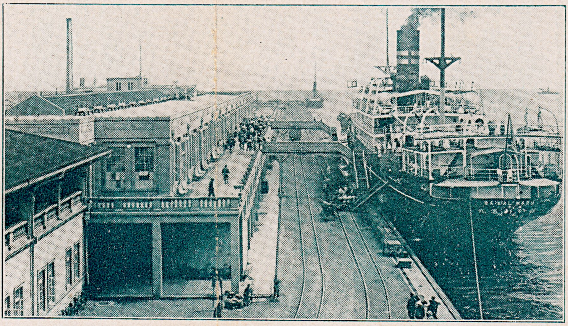
昭和二年一月印刷

東京印刷株式會社印行

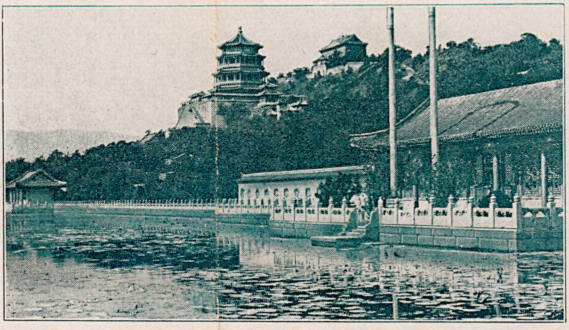
哈爾賓市街



大連埠頭



北京萬壽山



上海市街



〔遊覽の栞〕滿鮮問題の囂しい折柄、彼地の人情風俗産業等を視察される事は、甚だ有意義なことゝ存じます、殊に沿道到る所、寺廟、樓閣、城址等名勝舊蹟の觀るべきもの甚だ多く、視察と遊覽とを兼ねた好個の旅行として推奬致します、茲に御觀光の便宜にもと旅程數種を掲げ、これに要する費用概算を掲載しました、固より所載箇にして盡さない所多いかも知れませぬが、若し御觀光計畫に資する所あれば幸であります。詳細は弊社鮮滿案内所に御照會下さい。

旅程と費用概算

本旅程の旅費概算は汽車汽船賃、旅館宿泊料、旅館に於ける晝食料、汽車中所要の食事料及視察地に於ける車馬賃等（雜費を除く）を左記標準に依り其料金を概算したものであります。

日本旅館宿泊料（朝晩二食付、茶代を含まず、但し學生に限り三食付とす）

	一等	二等	三等	學生	普通團體	二十人以上學生團體
朝鮮	圓六.五〇	圓五.五〇	圓四.〇〇	圓三.〇〇	は上記料	圓二.五〇
滿洲	六.五〇	五.五〇	四.〇〇	三.〇〇	金の二割	二.五〇
哈爾賓	一三.〇〇	一〇.〇〇	八.〇〇	五.〇〇	引	四.〇〇
支那（三食付）	弗一〇.〇〇	弗八.〇〇	弗六.〇〇	弗四.五〇		弗四.〇〇

旅館晝食料

内地	圓二.五〇	圓二.〇〇	圓一.五〇	圓一.〇〇
朝鮮	二.五〇	二.〇〇	一.五〇	一.〇〇
滿洲	三.〇〇	二.五〇	二.〇〇	一.〇〇
哈爾賓	四.〇〇	三.五〇	三.〇〇	二.〇〇
支那	弗四.〇〇	弗三.〇〇	弗二.〇〇	弗二.〇〇

車中食事料

	一等及二等（食堂車）	三等及學生（驛賣辨當）
朝鮮	圓一.五〇	圓.四〇
滿洲	一.五〇	.五〇
支那	弗一.四〇	弗一.四〇（食堂車）

十五日間滿鮮周遊旅程

第一日　夜下關行急行列車にて**東京**出發車中寢臺宿泊

第二日　朝**大阪**著發同夜**下關**驛著直ちに關釜連絡船に乘船（乘船の際税關檢査があります）、船中宿泊

第三日　朝**釜山**上陸市内見物の上同朝奉天行普通列車にて發、同夜**京城**著宿泊

第四日　**京城**見物（南山公園、商品陳列館、パゴタ公園、博物館、動植物園）京城宿泊

第五日　**京城**見物（美術品製作所、景福宮、獨立門、龍山市街、漢江）奉天行夜行列車にて發、車中寢臺宿泊（都合にて本日午後仁川見物）

第六日　早朝**平壤**著市内見物（瑞氣公園、大同門、練光亭、牡丹臺、乙密臺、箕子廟）同日午後發列車にて奉天に向ふ、車中寢臺宿泊（途中安東驛にて税關檢査あり必ず檢査に立會はねばなりませぬ、時計を一時間遲らせる事）

第七日　早朝**奉天**著馬車を雇ひ市内及近郊見物（新市街、北陵、城内、附屬地市街、滿洲醫科大學）（北陵拜觀には支那官憲發給の許可證を要しますから日本領事館經由其手續をせねばなりませぬ）

第八日　朝奉天發列車にて**撫順**へ、各炭坑其他の施設を視察（大山坑、東鄕坑、モンド瓦斯工場、市街、古城子露天掘）夕刻撫順發列車にて**渾河**乘換へ大連に向ふ、車中寢臺宿泊

第十四日　朝**湯崗子**發正午**大石橋**著乘換へ**營口**著約三時間市内視察（遼河、新市街、東亞煙草會社、天后宮、牛家屯、居留地）、午後**營口**發大石橋乘換にて南下同夜**大連**著宿泊

第十五日　**大連**市内見物（埠頭、露西亞町、西公園、老虎灘）、宿泊

第十六日　朝**大連**發列車にて**旅順**著案内者及馬車を傭ひ各戰蹟視察（白玉山表忠塔、記念品陳列館、各戰蹟、博物館、新舊市街）、夕刻發列車にて**大連**著宿泊

第十七日　**大連**市内及郊外見物（電氣遊園、中央試驗所、小崗子支那市街、沙河口工場、星ケ浦）、宿泊

第十八日　午前十時出帆大阪商船定期船（毎週二回出帆）にて内地に向ふ、船中宿泊

第十九日　洋上、船中宿泊

第二十日　午後**下關**上陸（税關の檢査があります）、同夜一、二等特別急行列車に乘車（三等旅客は三等特急に依る但し團體の場合は同夜發東京行普通列車に依る）、車中寢臺宿泊

第二十一日　朝**大阪**著發（車窓より沿道眺望）同夜**東京**驛歸著

旅費概算

本旅費概算は下關發より下關歸着迄を計上したものでありますから其の他の地方から出發せられる場合は本旅費に出發地下關間汽車賃食事料等を加算せねばなりませぬ

	一等	二等	三等	學生
旅費總額（船車、宿泊、車馬食費を含む）	圓四三九.五〇	圓三一四.六一	圓一九三.五九	圓一三六.五五
二十人以上團體一人當り旅費	二等 圓二四七.七八	三等 圓一五二.七三	學生 圓一〇八.四四	

（團體の場合は寢臺の都合がつかぬ事があります）

（備考）銀百弗は金百三十圓の割にて換算計上しました、

三十日間津浦線經由日中周遊旅程

第一日　夜下關行急行列車にて**東京**出發車中寢臺宿泊

第二日　朝**大阪**著發同夜**下關**驛著直ちに關釜連絡船に乘船（乘船の際税關檢査があります）、船中宿泊

第三日　朝**釜山**上陸市内見物の上同朝發奉天行普通列車に乘車同夜**京城**著宿泊

第四日　**京城**見物（南山公園、パゴタ公園、博物館、動植物園）宿泊

第五日　**京城**見物（美術品製作所、景福宮、龍山市街、漢江、或は午後仁川見物）同夜**京城**發奉天行列車に乘車、車中寢臺宿泊（途中安東驛にて税關檢査あり必ず檢査に立會ふこと又時計を一時間遲らせる事）

第六日　夕刻**奉天**著（少憩後大連行普通列車に乘換）車中寢臺宿泊

第七日　朝**大連**著市内見物（露西亞町、埠頭、油房、市街）、宿泊

第八日　**大連**市内見物（西公園、中央試驗所、小崗子、沙河口工場）、宿泊

第九日　朝**大連**發列車にて**旅順**著、馬車、案内者を傭ひ戰蹟見物

渾河乘換へ大連に向ふ、車中寢臺宿泊

第九日　朝**大連**著市内見物（露西亞町、西公園、電氣遊園、市街、）宿泊

第十日　朝大連發**列車**にて**旅順**へ、驛に於て馬車及案内者を傭ひ各戰蹟廻り（白玉山表忠塔、記念品陳列館、各戰蹟、博物館、新舊市街）夕刻發列車にて大連著宿泊

第十一日　**大連**市内及郊外見物（油房、寺兒溝苦力收容所、中央試驗所、小崗子支那市街、沙河口工場、星ヶ浦）、宿泊

第十二日　**大連**埠頭視察、午前十時出帆大阪商船定期船（毎週二回出帆）にて内地に向ふ、船中宿泊

第十三日　洋上、船中宿泊

第十四日　午後**下關**上陸（稅關檢査があります）、**列車**待合せ中下關市内見物同夜一、二等特別急行列車に乘車（三等旅客は三等特急に依る但し團體の場合は同夜發東京行普通列車に依る）、車中寢臺宿泊

第十五日　朝**大阪**著發（車窓より沿道展望）同夜**東京**驛歸著

旅費概算（茶代雜費を含まず）

本旅費概算は下關發より下關歸着迄を計上したものでありますから其の他の地方から出發せられる場合は本旅費に出發地下關間汽車賃食事料等を加算せねばなりません

	一等	二等	三等	學生
旅費總額（船車、宿泊、車馬食費を含む）	二五五・七五圓	一九四・四五圓	九四・三五圓	七〇・五七圓
二十人以上團體一人當り旅費	二等　一四九・一三	三等　七七・一四圓	學生　五六・六七圓	

（團體の場合は寢臺の都合がつかぬ事があります）

二十一日間滿鮮哈爾濱周遊旅程

第一日　夜下關行急行列車にて**東京**出發車中寢臺宿泊

第二日　朝**大阪**著發同夜**下關**驛著直ちに關釜連絡船に乘船（乘船の際稅關檢査があります）、船中宿泊

第三日　朝**釜山**上陸市内見物同朝發奉天行普通列車にて出發（車窓より沿道風光展望）、同夜**京城**著宿泊

第四日　**京城**市内見物（美術品製作所、景福宮、パゴダ公園、商品陳列館、博物館、動植物園）、宿泊

第五日　**京城**市内及郊外見物（南山公園、龍山市街、漢江、淸凉里）或は午後仁川見物同夜**京城**發奉天行列車に乘車、車中寢臺宿泊

第六日　早朝**平壤**著市内見物（瑞氣公園、乙密臺、牡丹臺、箕子廟、浮碧樓練光亭、大同門）、午後發列車にて**奉天**に向ふ、車中寢臺宿泊（途中安東驛構内にて稅關の檢査がありますから必ず立會はねばなりませぬ、又同驛で時計を一時間遲らせる事）

第七日　早朝**奉天**著馬車を傭つて市内及郊外見物（新市街、北陵、城内、滿洲醫科大學）（北陵拜觀には支那官憲發給の許可證を要するから豫め日本領事館を經て其の手續をせねばなりませぬ）

第八日　朝奉天發列車にて**撫順**著、各炭坑其他の施設視察（大山坑、東鄕坑、モンド瓦斯工場、露天掘）、夕刻撫順發列車にて**奉天**著、宿泊

第九日　朝**奉天**發長春行列車に乘車午後**四平街**著此處にて鄭家屯行列車に乘換へ夕刻**鄭家屯**著宿泊

第十日　午前中市街見物午後**鄭家屯**發列車にて四平街へ、同夕刻四平街著長春行急行列車に乘換へ同夜**長春**著宿泊

第十一日　長春市街及城内見物（新市街、伊通河）、午後發東支鐵道列車にて哈爾濱へ、同夜**哈爾濱**著宿泊

第十二日　**哈爾濱**市内見物（新市街、東支鐵道廳、チユーリン商會、埠頭區、商品陳列館、市場、公園、松花江、傳家甸）、同夜南**行列**車にて**哈爾濱**發車中寢臺宿泊（東支鐵道時刻は滿洲時刻より廿六分早し）

第十三日　早朝**長春**著南行滿鐵急行**列**車に乘換へ同朝**公主嶺**著農事試驗場、市街視察、午後發列車にて更に南下、夜半**湯崗子**著湯崗子溫泉旅館宿泊

第九日　朝**大連**發列車にて**旅順**著、馬車、案内者を傭ひ戰蹟見物（白玉山表忠塔、記念品陳列館、各戰蹟、博物館、新舊市街）夕刻旅順發列車にて**大連**著宿泊

第十日　**大連**郊外見物（星ヶ浦、老虎灘）、長春行夜行列車にて奉天に向ふ、車中寢臺宿泊

第十一日　朝**奉天**著撫順行列車に乘換へ**撫順**著各炭坑視察（大山坑東鄕坑。モンド瓦斯工場、露天掘）夕刻撫順發列車にて**奉天**著宿泊

第十二日　馬車を傭ひ**奉天**見物（北陵、城内、新市街、滿洲醫科大學）（北陵拜觀には支那官憲發給の許可證を要す豫め日本領事館を經て手續をなさい）

第十三日　朝北京行京奉線列車にて**奉天**出發（奉天驛構内兩替店で若干邦貨を支那通貨に兩替し置くを便とす）車中寢臺宿泊

第十四日　朝**北京**著市内見物（天壇、外城市街、前門大街）宿泊

第十五日　**北京**見物（紫禁城、武英殿、文華殿、中央公園、北海、鐘樓、鼓樓孔子廟、國子監、雍和宮、東安市場、東交民巷）（北海拜觀には支那官憲の許可證を要す日本領事館警察署に請求のこと）

第十六日　**北京**郊外見物（植物園、萬壽山、玉泉山）宿泊

第十七日　**北京**滯在（觀劇、土産物購入）、都合にて**八達嶺**萬里長城見物午後發列車にて**北京**發同夜**天津**著（天津には東驛と中央驛とありますが始めての旅行者は東驛に下車される方がよろしい）宿泊

第十八日　**天津**市内見物（各國租界、商埠、運河、李公祠、支那公園）午後發南行津浦線特別急行列車にて**天津東站**發同夜**濟南府**著直ちに青島行列車に乘換、車中寢臺宿泊

第十九日　朝**青島**著市内見物（公園、各種工場、戰蹟）宿泊

第二十日　**青島**市内及郊外見物（屠場、上下水道、埠頭、勞山）濟南行夜行列車にて**青島**發、車中寢臺宿泊

第二十一日　朝**濟南府**著城内見物（大明湖、趵突泉、濼口、千佛山、商埠）同夜南行特別急行列車にて**濟南府**發、車中寢臺宿泊

第二十二日　午後**浦口**著連絡船にて**南京下關**著（城内見物）宿泊

第二十三日　**南京**見物（南京商埠、雨花臺、朝天宮、明の孝陵、莫愁湖）同夜上海行急行列車にて**南京**發、車中寢臺宿泊

第二十四日　早朝**蘇州**著見物（城内、寒山寺、虎丘、寶帶橋）午後發**列車**にて**蘇州**發同夕刻**上海**著宿泊

第二十五日　**上海**市内見物（黃浦灘路、各租界、各公園、競馬場、外人墓地、同文書院、マーケット）、宿泊

第二十六日　**上海**見物（城内、湖心亭、張園、愚園、徐家滙天文臺、龍華寺）、宿泊

第二十七日　朝**上海**發列車にて**杭州**著湖畔に於て畫舫を傭ひ西湖一週（西湖八景、杭州市街、商品陳列館）同夕刻**杭州**發**上海**著宿泊

第二十八日　早朝日支連絡船（上海丸、長崎丸）にて**上海**港發（毎四日目上海出帆、船中にて日本稅關の檢査があります）、船中宿泊

第二十九日　朝**長崎港**著午後發門司行急行**列**車に乘車（沿道風光展望）同夜**門司**著直ちに關門連絡船にて**下關**に渡り東京行一、二等特別急行列車にて**下關**發（三等旅客は同三等特急に依る但し團體の場合は同夜發東京行普通列車に依る）、車中寢臺宿泊

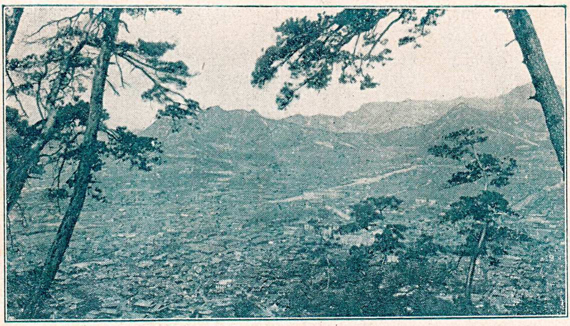
第三十日　朝**大阪**著發（沿道風光展望）同夜**東京**驛歸著

旅費概算

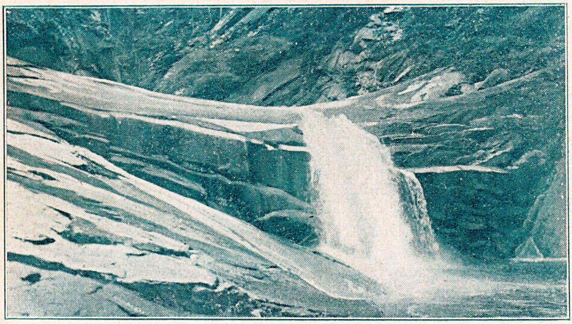
本旅費概算は下關發より下關歸着迄を計上したものでありますから其の他の地方から出發せられる場合は本旅費に出發地下關間汽車賃食事料等を加算せねばなりませぬ

	一等	二等	三等	學生
旅費總額（船車、宿泊、車馬食費を含む）	七〇〇・四六圓	五一五・二八圓	三五一・二三圓	三二〇・一六圓
二十人以上團體一人當り旅費	一等　六二二・六四圓	二等　四四五・三三圓	學生　二六四・五七圓	

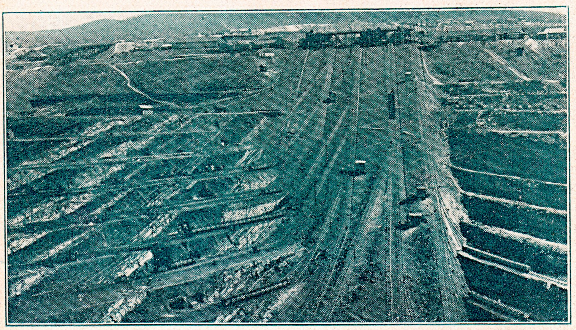
（團體の場合は寢臺の都合がつかぬ事があります）



京城市街



朝鮮金剛山



撫順炭坑露天堀



奉天北陵